

疾患	病理	主症状	タイプ	出現頻度
パーキンソン病	中脳黒質のドーパミン産生の減少	静止時振戦、固縮、無動、姿勢反射障害	運動低下性	初期症状としては稀、病勢の進行とともに出現
進行性核上性麻痺	深部白質の神経変性	眼筋麻痺(下方注視障害)、ジストニー、固縮、仮性球麻痺、認知症	痙性、運動低下性、失調性の混合	頻発、初期症状の一つである場合も
シャイ・ドレーガー症候群	小脳、橋、下位オリーブ核および基底核の変性	初期に自律神経症状(起立性低血圧など)、固縮、振戦	痙性、運動低下性、失調性の混合	頻発
線条体黒質変性症	線条体変性と基底核とのかかわり	固縮、無動、姿勢不安定、腱反射亢進	痙性、運動低下性、失調性の混合	頻発、初期症状の一つである場合も
オリーブ橋小脳萎縮症	小脳、橋、下位オリーブ核および基底核の変性	失調、振戦、固縮	痙性、失調性あるいは弛緩性・運動低下性の混合	頻発
ウィルソン病	脳特に基底核における銅の蓄積	協調不全、振戦、流涎、嚥下障害、仮面様顔貌	失調性、痙性、運動低下性の混合	ほぼすべての症例に出現、初期症状の一つである場合も
フリードライヒ失調症	脊髄と小脳の変性	骨変形および感覚障害を伴う失調	失調性だが痙性の場合も	頻発
ジストニー	錐体外路	異常な不随意運動・姿勢	運動過多性	障害の分布による
ハンチントン病	線条体特に尾状核および皮質の変性	舞踏病、認知症および情緒不安定	運動過多性	特に末期に頻発
筋萎縮性側索硬化症	上位・下位運動ニューロン変性	筋力低下および痙性	痙性・弛緩性の混合	3割に初期症状として出現、病勢進行とともに頻発
多発性硬化症	時間的空間的に多発する中枢神経の脱髄	バランスの異常、感覚障害、不全対麻痺、視神経炎	失調性・痙性の混合	約4割に出現

ディサースリアを伴う変性疾患一覧 by Shin 2008.7.6

(M.Yorkston Management of Motor Speech Disorders より改変)